

---

# 夏目友人帳 ~ Before ・ Story ~

田中太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏目友人帳 Before・Story

### 【Nコード】

N9205Y

### 【作者名】

田中太郎

### 【あらすじ】

これは、斑が夏目貴志と出会う前の物語。

**（前書き）**

最後の方は意味不明ですが、まあご愛嬌ですね…

夏目貴志がニャンコ先生　斑まだらと出会う遙か昔の事、さらに言うと  
夏目の祖母

夏目レイコと先生が出会う前の事…

大体、夏目貴志一（以降夏目）が生きている時代より300年ほど  
前江戸時代の  
斑の物語だ。

「いたぞーあつちだー！」

徳川の家紋が入った服を身に纏い、同じく家紋が入った帽子をかぶ  
った兵士が

何かを見つけ、援軍を呼んだ。およそ100人と言ったところか…

「くそ、見つかったか！」

その追われている何かは、後のニャンコ先生となる斑であった。

このころの斑は、所謂そこそこの妖でそれなりに警戒される妖であ  
ったため

今こうして追われているのだがやはり一匹の妖に費やす兵力ではな  
い。

そして、銃を持った兵士たちが一斉に銃弾を放った。

しかしその銃弾が斑に当たる事はなかった。

「な、なんだあれは…？」

何故なら、銃弾は剣を持った謎の男によって叩き落されたのだから  
だ。

「おいおい、一匹の妖相手にその大軍はないんじゃないのか？」  
男は、100の大軍に微塵も恐れることなく立ち塞がる。

「（な、なんだ？何故私を庇う？）」

さすがの斑もこれには、動揺を隠せない。

すると一人の兵士がその男について思い出したようで、声を上げる。

「ん？銀色の髪…！最近妙に妖の方を持つ夏目と言う白銀の髪の男が居ると

聞いた事がある…まさか、お前…！」

一人の兵士がそう言うところとどんざわめきが広がって行く。

「それは、真か？そういえばワシも聞いた事があるぞ、徳川1000の軍を

一人で薙ぎ倒した男が夏目と言う白銀の髪の男だと…」

老練とした兵の一人が言うので、信憑性が生まれ軍内のざわめきが一層大きくなる。

「1000の兵を一人で…！そ、そんな怪物に勝てるわけがない…」

そんな軍の状態を見越し、指揮官は撤退命令を出す。

「（…この士気の下がり様では、勝てる者も勝てぬの…仕方ない…）  
撤退だ！」

「………はっ………」

総員が了解の意を示し徳川1000の兵は撤退していく。

謎の男      夏目と斑しかいなくなったその場で夏目は、斑に話しかける。

「おい、大丈夫か？」

「…ああ、それより何故お前は私をかばったのだ？」  
斑の疑問は尤もである。

「？そりゃあ、お前あれだよ、俺は知ってるからだよ。」

「…何をだ？何を知っているのだ？」

「妖がすべて悪い奴じゃないってことをな…だからだ、それにしてもなんでつてお前は、あんな大軍に追われてたんだ？」  
斑の質問に答えて後夏目も質問をする。

「…私は、その内人の手の負えなくなるくらい大きな妖になるそう  
だ、

そうなる前にと、よくあのくらいの大軍で来るんだ…」

「…じゃあ、俺と一緒に来るか？俺にとってお前くらい強い妖が  
一緒なのはうれしい、それに自惚れではなく俺がお前を手を負えな  
くなる事はないだろうからな」  
最後のが自惚れではないと言えるのはやはり、夏目の力が強い事があるのだろう。

「…（手に負えなくならないのは、うそではないだろうし  
こいつがホントに気に食わないのなら食ってしまえばよいのだから  
な…）いいぞ、ついていこう」  
裏がありすぎると言っても過言ではないが承諾の意を示した斑だった。

「そうか、なら契を交そう。俺は、何があってもお前を見捨てない

だから、お前は俺が死んでからも俺の血縁者を守るんだ。」

「…まあ、いいだろう。」

そして、二人は契を交した。

その後、夏目と斑はいろいろなところを旅した。

秘湯を探したり、うまい酒を探したり、いろいろな事をした。

そんなある日、夏目は街で知り合った女と結婚すると言い出した。

「斑、おれはこいつと結婚する。」

夏目は、そういつてその女を見せる。

「…いいんじゃないのか？」

そうは言っているが、何かさみしそうな顔をしている。

「…ありがとう、でも旅は続けるからな。」

「ああ！」どうやら、斑も夏目と旅するのは楽しいようだ。

事実、斑は夏目と旅するようになってからあまり強化していない。だが、結婚し子供も生まれると夏目は、斑との旅をする回数が減って行った。

「夏目…」

斑が話しかけるが…

「斑か、今忙しい後にしてくれ。」

そう言つてどこかへ行つてしまう。

「（これでは、契が違つではないか…）」

そんな日々がしばらく続き、斑の強大化が始まって行った。

「（くっ…力が強くなっていくのが分かる…いつか自分でも制御できなくなるのだろうか…）」

斑は、そう思い夏目に相談しようと思うが実行には移さなかった。

理由は簡単、斑は、夏目は私を見捨てたと思ったからだ。

それから、2年経った。

斑の力は、夏目と出会った時とは比べ物にならないくらい強大になっていた。

そんなある日

「…！（なんだ？急に力が…）」

斑の体がどんどん黒に染まって行く。

「（い、意識が…）」

そして、一端倒れるがすぐに立ち上がるその時の斑はとても恐ろしかった。

「グオオオオオオオオ！！」

咆哮を上げ、走り出す。民家を踏みつぶし逃げていく人を喰らう

それは、まさしく悪魔だった。

夏目も、その斑の暴走に気付きとめに行く。

途中夏目の妻が止めるが…

「すまん、斑は俺が止めないといけない…いや、俺が止めたいんだ！分かってくれとは

言わない、それじゃ子供は頼んだ！」

と詰めの制止を振り切り走って行く。

「（斑…すまない…最近、相手をしてやれなくて…）」

そう、思っていると暴走現場に着いた。

そこは、地獄絵図だった。

たくさん血、ところどころに落ちている生首

「（…う久しぶりだな、こんな空気…早く斑を止めなくては）」  
夏目は、あの銃弾を叩き落した剣を抜き斑に向かって走る。

「うおおおお！！」

人間とは思えない跳躍力で跳び、斑に一閃。

しかし、斑の巨大な爪に防がれる。

その繰り返したたが、ついに斑が競り勝ち夏目をその爪が切り裂く。

「グハッ」

血を吐き、倒れていく夏目、その時ようやく斑は正気を取り戻した。

「…？（何だったんだ？…ん？あれは、夏目！？）」

斑は、正気に戻ると倒れている夏目を見つける。

「…夏目…」

斑は、自分がやったと気付いたようだ。

「…うう…おお、斑か…すまん、最近一緒に旅できなくて…  
おっと、俺は多分死ぬな、今までありがとう…そして、さよなら…」  
そして、夏目は動かなくなった。

「なんだ…最後に謝って…腹立つ…でもなんでだ…涙がとまらない…」

斑は、死んだ夏目を持って山奥に行きそこに埋めた。

「…じゃあな」

そして、斑は名のある妖祓いの所に行き封印してもらった。

それから200年ほどたったころ、夏目レイコによってその封印がとかれた。

「…？誰だ？（この封印を解くとは…）」

斑がそう聞くと

「あれ？やっぱりここか…」

帰ってきた声は、女性の声だった。日の光が当たるとその女性の顔が見えた。

「！夏目！？」

斑は、驚く。

「多分、それはひいおじいちゃんの事ね…文献に書いてあったわ。それにここの封印がゆるくなってたからし直しに来たんだけど…出てくる？」

レイコがそう言つと斑は、出ると答えた。

「久しぶりにな…（それに夏目との契がある事だしな）」

そして、見る景色はとも変わっていた。

それから、数年が経ち斑はいろいろな祭り事に顔を出し名を売って行った。

斑は、レイコに何故、友人帳を作るのかを聞いた。

暇つぶしよと答えていたので、斑はレイコが死んだらもらう約束をした。

その約束をしてから数日、レイコは、ついに妖との戦いに敗れて死んだ。

だが、斑は友人帳をもらうことはせずに自らを招き猫をよりしるに

封印させた。

ちなみに今度は、夏目の血縁者出なければ解く事ができない封印にした。

それから100年ほどが経ち今度は、夏目貴志によって封印が解かれた。

「……ろ……きろ……起きろ！先生」  
誰かが斑を起こす声が聞こえる。

「……ん？なんだ夏目か？（久しぶりにあの夢をみたな……）」

「ほら、もうすぐで温泉に着くから起きろ。」

「ああ、」

そして、温泉に着くとそこは夏目と斑が旅をしていた時初めて訪れた所だった。

side 斑

なんの因縁なのか……

それにしても、私は夏目とはやはり切っても切れない縁のようじゃな……

これからもこんな関係がつづくのだろうか……

それは、またかんがえていくしかないか……

今は、これからの温泉を楽しもう！

（後書き）

読んでくださってありがとうございました。  
意味不明ですね…すいません。  
どうでしたかね…？

感想待ってます。批判はご遠慮ください。

それでは、また…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9205y/>

---

夏目友人帳～Before・Story～

2011年11月27日16時53分発行